



令和6年度 第2号
 [通巻 138号]
 耶麻地区小学校長会
 令和6年12月2日

巻頭言

「還暦前の戯れ言か」

耶麻地区小学校長会副会長

喜多方市立第一小学校長 五十嵐 博也

8年度ぶりに学校現場に戻り「はて？」と感じたこと、思いを職員に伝えた。

1 コミュニケーションはあいさつから

- 出勤後、校長室の出勤簿に押印する（喜多方市立小学校及び中学校管理規則第19条に「押印しなければならない。」とあるので仕方ない、するしかない）。
- 退勤時も校長室に来て、職員名札の下のコマを「退勤」の位置にする。「しなければならない」訳ではないが、知らぬ間に退勤していたならば寂しい。一言「お疲れ様」ぐらい言わせてほしい。決して引き留めての長話はしないから…。
- 人との関わりを大切にせる職業だからこそ、まずは職員同士が顔を合わせ、あいさつや言葉を交わすことは大事にしたい。

2 ガラパゴスの学校職員文化？

- 社会人として、時と場、状況に応じた服装・身だしなみが求められる。
- 運動着出勤するのは着替えが面倒？誰も見ていないからいい？負担軽減？…。
- 子どもは私服で登校し、学習活動により運動着に着替え下校時に私服に戻る。きまりはないが、社会人、大人としての常識、自律は必要ではないか。
- 清掃時、子どもは帽子を被る。被る理由はある。先生は被らなくてもよい？
- 子どもに、先生は特別？なぜいいの？と訊かれ、明快に説明できればよいが…。

3 少しでも持続可能な社会づくりに

- もちろん必要な照度は確保。でも無駄は省き

たい。子どもは先生の姿を見ている。「自分もエコな取組をしていこう・・・。」となるかも。

「他校はどうか？」「気にし過ぎ？」「古い？」強制力は無く価値観も多様性の時代だが、校長としての思いは伝えていきたい。

転出校長より

「喜多方での学びを磐梯の教育で」

前 喜多方市立豊川小学校長

磐梯町立磐梯第一小学校長 佐々木 豊

2年間お世話になった豊川小での勤務は、着任初日に出席簿誤廃棄が発覚し、入学式前日に保護者説明会を開くという波乱のスタートで幕を開けました。

1年目は、不登校児童の保護者対応で大変苦勞し、コミュニティスクールの運営にも悩みました。2年目は、不安定な学級を支えるため努力したことを思い出します。そんな私を、豊川小の同僚職員やPTA役員、農業科支援員、地域の方々が支えてくれました。「校長としての悩み」は耶麻地区の校長先生方にご相談し、アドバイスを受け、何とか乗り切ることができました。特に喜多方一中学区の校長先生方にはお世話になりました。会津若松駅前での飲み会は、今でも楽しい思い出です。感謝。

磐梯一小でも刺激的な毎日を過ごしています。それは磐梯町の教育が、今、大きく変わろうとしているからです。9月の町議会で教育基本構想が正式に承認され、小学校の自由選択制実施が決定しました。つまり、磐梯町の小学生は、学区に関係なく磐梯一小と磐梯二小を自由に選択できるのです。令和8年度実施に向け、現在、町からは選択の判断基準となる特色を考えるよう求められています。

磐梯一小で考えている特色は「小グループに

よる協働的な学び」です。そう、喜多方市で推進している「学びの共同体」です。喜多方市で学んだことを、磐梯町の子ども達のために実践できればと考えています。

来年度は、フリー参観や学校説明会を開き、10月には小学校を選択してもらう予定です。どこまでできるか分かりませんが、「できることから少しずつ」歩みを進めていきたいと考えています。

転出校長より

「期待を膨らませて登校できる学校をめざして」

前 喜多方市立駒形小学校長

須賀川市立大東小学校長 齋藤 敦

歴史と伝統ある須賀川市立大東小学校に着任し、8ヶ月が過ぎようとしています。耶麻地区小学校長会では、諸先輩の校長先生方々から多くのことを教わり、何とか3年間勤めることができました。本当にありがとうございました。現在は、新たな学校での勤務に戸惑いながらも、子どもたちと先生方に支えられながら何とか勤めることができています。

毎朝の校門前での街頭指導から校長としての業務がスタートします。登校してくる子どもたちに「おはようございます。」の挨拶を繰り返し、子どもたちからの挨拶が少しずつ大きくなってきていることに細やかな喜びを感じています。教室訪問の際、1年生から「校長先生、今日は遅かったね。」と声をかけられ、私の挨拶を待っている子がいると思うと街頭指導へ向かう足取りも軽やかになりました。本校の子どもたちは、前向きで、人懐っこく、気軽に話しかけてくる子が多く集団としてのまとまりも感じさせてくれます。屈託のない笑顔を見せてくれるこの子どもたちが「毎日学校に来る喜びを感じ、また明日も学校に行きたい。」と思えるような学校にすることが校長としての責務であると感じています。そのために「望ましい集団づくり」をすべての



教育活動の基盤に位置づけて取り組んでいるところです。全ての子どもたちが、自分だけの光をかがやかせ、毎日期待を膨らませて登校できる学校を目指すことを学校経営の中核に位置づけ、全力で取り組んでいきたいと思っています。

学校経営あれこれ

「"楽しく"をテーマに」

喜多方市立第三小学校長 河野 公寿

第三小学校は今年度、全校児童57名、1年生の入学が1名でのスタートでした。フットワークも軽く、少人数の学校であることを最大限に生かし、子ども達が岩月町の学区や喜多方市をフィールドとして、様々なところに出かけていき、地域連携を図りながら子ども達の学びの充実を目指しています。今年度は学校運営推進テーマを設け、すべての教育活動に推進テーマの理念を反映させていこうと職員とも共通理解を図りました。そのテーマが『楽しく』です。運動会では、スローガンを「～楽しさいっぱい 力いっぱい 元気いっぱい～」とし、子ども達の競技だけでなく、保護者の方も参加する種目を設けて、みんなで運動会を楽しめるよう工夫しました。また、6年生による岩月町に残る近代産業遺産「三津谷の登り窯」の見学や、1～3年生による、ニッコウキスゲが咲き誇る6月下旬の雄国沼散策など、地域の施設・自然を生かした活動を実施し、子ども達が楽しみながら自分たちの住む地域を知り、地域で学ぶ活動を展開しました。さらに、学習発表会では、テーマを「Enjoy 三小 いいこといっぱい夢いっぱい」とし、子ども達がこれまで地域と関わり学んだことを生かし、少ない人数だからこそ、一人一人の児童が活躍できる発表を目指し取り組みました。その他にも収穫祭では農業科支援員の方々に感謝の気持ちを伝えたり、三中学区授業交流会の担当校として、地域と連携し、子ども達が楽しみながら主体的に学ぶ授業を参観していただきました。

今後も、この取組を継続し、本校ならではの地域と連携した魅力あふれる学校を目指していきたいと思っています。

学校経営あれこれ

「経営の難しさを感じて」

喜多方市立熱塩小学校長 下重 祐三

「〇〇先生、今日の算数科の授業はどうする？」これがほぼ毎朝、高学年担任との会話となっています。

本校は今年度から完全複式学級となり、教師が3名しかおりません。複式補正の講師もいますが、先生方は忙しく、そして負担のかかる毎日を過ごしています。

昨年度熱塩小学校に赴任して以来、高学年の算数科の授業をT・T形式で支援したり、取り出しで苦手な児童に教えたりしてきました。それを今年度も続けているのですが、5年生の算数科の授業にも入りたい、入ってほしい。でも6年生の算数科にも同じ事がある。どうしても重なってしまうのです。簡単に時間割をずらせばいいのでは？と思われるかもしれませんが、実際はそう簡単にはいかないのです。

その上、〇〇研修会、悉皆での出張なども多く、3人の担任はどうしても出張が多くなり、負担をかけている状況もあります。出張の際には、教頭か校長が代わりに授業を行っています。担任が落ち着いて授業をする事が難しいのが実情です。

県や市の重点事項として、「学力向上、指導力向上、体力向上、道徳教育の充実、生徒指導の充実、肥満防止、食育教育、虫歯予防、ICT教育、図書指導etc・・・そして、喜多方市独自の農業科の指導」どの施策も大切ですが、熱塩小学校では、何を最重要として取り組めばいいのか、取り組ませるのか、教職員が病休にならないようにするにはどうすればよいか等、日々悩み続けています。

2年目の未熟な校長で、悩むのも当たり前と言われるかもしれませんが、今後何処の校長となっても同様の悩みが続くでしょう。日々学校経営の難しさを実感しながらも、高学年の授業に参加して、児童の「分かった!、できた!!」の笑顔が見られることを楽しみに過ごしています。

市町村・地区だより

「地域みんなで考えるSNSとのつきあい方」

喜多方市立山都小学校長 猪俣 秀昭

山都小中学校区で設置している山都地区学校運営協議会の取り組みについて紹介したいと思います。

コロナ禍によるGIGAスクール構想実施の前倒しにより急激にICT機器との距離感が縮まったことも受け、山都小中学校区では令和3年度のCSスタート当初より、メディアコントロールやSNSとのつきあい方に関する課題を熟議のテーマとして、取り組みを進めてきました。また、昨年度からは保護者参加型の運営協議会事業を設け、一緒に課題の意識化を図り児童生徒の健全育成に資するよう工夫してきました。

今年度開催した1つめの事業は、会津大学短期大学部教授中澤真様による講演会「AI時代のメディアリテラシー～スマホ・ネットとの上手なつきあい方～」です。教育事務所「親子の学び応援講座」を活用し、山都中生徒・小中保護者・教職員・運営協議会委員を対象としました。2つめの事業は、「子どもたちをネットトラブルに巻き込まないために」をテーマとした小中保護者・教職員・運営協議会委員による熟議です。熟議に先立って、山都小PTA会長様には福島県PTA研究大会郡山・田村大会の第3分科会「NET社会に生きる子どもたちと家庭」の内容伝達をしていただき、参加者が課題意識を高めながら熟議に臨むことができました。

2つの事業の開催に当たっては参加者数の問題など課題もたくさんありますが、今後も、地域みんなでSNSとのつきあい方を考える場と機会を大切に、子どもたちが自律的・積極的に判断力を身に付けることができるよう後押ししていきたいと思います。

市町村・地区だより

「ポリスメールに学ぶ」

喜多方市立堂島小学校長 橋本 淳

2年前から、喜多方警察署発信のポリスメー

ルに釘付けです。きっかけは、熊の目撃情報でした。目撃場所や時間、大きさの情報の最後に、「絶対に戦いを挑まないでください。」でグッと惹かれ、「熊と戦って勝てるのは、ウィリー・ウィリアムスだけです！」で、もう虜。当時の教頭先生にもすぐに見せ、一緒に大爆笑しました。その後も格闘ネタを絡めたり、絵文字を使ったりするポリスメールは続きました。【今は、落ち着いた感があります。】

警察は、安全に関する情報や注意喚起をメールで発信することで、素早く情報を提供し、地域住民の命を守る努力をしているのでしょう。しかし、思いを込めて発信したのも読まれなければ意味はない。このポリスメールから学んだのは、発信者として受け手を意識し、確実に思いを伝える創意工夫が必要だということです。

学校は、安全に関することは安心安全メール、学校や子どもの様子については学校だよりやHPで保護者や地域の方へお知らせしています。発信内容に相応しい表現で、学校としての品格を損なわないように、しばらく寝かせ、何度か読み返すようにしています。堅い表現になりがちなので、できるだけ分かりやすい言葉や柔らかい表現に置き換えて、発信しています。

保護者や地域の方に楽しみにしていただくために始めたのは、学校だよりに「コラム」欄を設け、不定期に日常の学校の様子や時事ネタ、私が普段考えていること等を載せることです。コラムなら、表現の縛りも多少は緩めることができるし、肩の力を抜いて読んでいただける気がします。それが、本当に伝えたい記事を読んでもいただけるきっかけになることを期待して。手応えがあれば、調子に乗らない程度に継続していきたいと考えています。いずれはポリスメールのように、A・○木や長○力等を登場させる！・・・無理かあ。

話の小窓

「20年後にも残る職業に」

喜多方市立慶徳小学校長 佐瀬 俊英

「教員の不足人数 年度途中で1.3倍にまで拡大」
今年5月と9月時点の教員不足の状況をNH

Kが調査した結果です。校種別に見てみると小・中学校はそれぞれ1.4倍まで拡大しています。この現状は、耶麻地区でも同じ状況です。そして、この状況が続けば子どもたちの学びにも大きな影響が出てくるのが懸念されます。

現在の学生のほとんどは、長時間勤務をはじめとして、教師の過酷な労働条件とハードワークから教員志望は少なく、民間企業への就職を希望する状況のようです。(今年度の高知県小学校教員採用試験合格者280名中204名辞退)このままでは、今後の教員不足はますます深刻な状況となってしまいます。文部科学省からは、「教科担任制の拡充など教員の定数の改善」「給与の引き上げ」「学校での働き方改革のさらなる推進」の3つの柱で働き方改革と教員の処遇の改善を進める方針が出されました。これらが、教員不足解消への有効な手段となることを期待しつつも、私たち校長が、「教科担任制の導入」や「働き方改革の推進」等、校長としてできることを推進していくことも必要になってきます。

今後、AIはますます発達し、社会の中でAIの活躍の場が増えていくでしょう。20年後、「教員」という職業が、AIにより、なくなってしまう職業の一つにならないためにも、私たちが教育にやりがいを感じられる人材の育成と確保ができるような環境を作り上げていくことが重要になってくると感じています。

編集後記

会報「耶麻」138号の原稿を担当された校長先生方から、次々と裏磐梯小学校に原稿が届いている頃、本校の校庭をふと眺めると、きらきらと雪が舞っていました。

まだ、「一面の銀世界」ではありませんが、3学期を迎える頃には、誰もが感動する、あの冬の裏磐梯の自然豊かで芸術的な風景が、普段の何気ない日常の風景になっていることでしょう。

「慣れ」とは人の大切な防御反応であると同時に、新たな発見や感動の目を鈍らせてしまうものでもあると感じます。いつもフレッシュな目と気持ちで、周囲を観察し考察していくこと。これが、私の来年の目標です。

耶麻地区小学校長会 広報部

北塩原村立裏磐梯小学校長 村松 泰二郎